2020年4月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第519号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

最近の海外取次の動向、及び体験記

大変な状況に陥った洋書業界 ――□■□

文・株式会社リベルタス代表　眞田範幸

リベルタス書店、"New Arrival"（新着）コーナーの一部

リベルタス書店は出版業を営みながら、人文科学を専門とする小規模洋書専門書店として活動しています。最近、海外の取次について、大きな出来事が立て続けに起こりました。ドイツの取次が倒産、アメリカ、そしてつい最近ではフランスの取次が日本での取次業務を停止したのです。

独・ＫＮＶの事例

時系列的に事実関係を追っていくと、まず、ドイツには日本と同様大手二社の取次、ＫＮＶ、リブリ (Libri GmbH) がありますが、今回そのＫＮＶが突如2019年2月14日に倒産したとのメールが飛び込んできました。ドイツ国内で大変な騒ぎになったとのことで、これはたとえて言えばトーハン、日販のどちらかが倒産したのと同様な事件ですから、日本国内でも話題になったとの話も聞き及んでいます。その2月19日付のメールでは、現在破産管財人の管理下にあり、支払いは従来とは異なった口座とすることを指定。その後、3月1日付のＫＮＶ営業部長からのメールでは、当初の混乱から落ち着きを取り戻し、彼らの中心となる業務は安定させることができたとの報告、そして引き続き変わらぬ支援と理解を求める内容でした。わが社は、ＫＮＶにはバックオーダー、継続オーダー分もあり、確たる先行きの見通しがつかないまま、業務を継続するとの報に不安を抱えながらも再建を願い、大いに期待したところでした。

その後エリアマネージャー（極東地域担当）から、私宛に業務を従来通り継続するとの確認の文書が送付されてきました。これでようやく安心できる状態になり、大したダメージもなく、今回の件はやり過ごすことができたかと思ったのですが、実はその後、取引条件の改訂、つまり掛け率の変更の連絡があったのでした。なんの前触れもなく、発注分の書籍とインヴォイスが到着し、最初は気が付かなかったのですが、掛け率が下がっていました。当然クレームし、当初の条件からは若干の変更に切り替えてもらいましたが、零細書店の取引額のことを持ち出され、なおかつ管財人の管理下にあることを考えるとそれ以上は困難と思い、それで話は中断。要は取引額を増やしてもらいたいとの要望でした。

通常KNVのウェブサイトをチェックし、その画面で価格と掛け率を確認、そして発注、不明の場合は商品管理部の担当者 ― 取引開始してからの同じ担当者（ほぼ10年以上）―にメールで連絡、という流れになりますが、出版社によって、あるいは同じ出版社でも出版物により条件が異なるので、見積書を送付してもらいます。ドイツ人は口数の少ない、人当たりの良くない印象もありますが、その担当者はクリスマス、年末、或いは週末には挨拶、労いの文言を頻繁に送り、ある意味商習慣とはいえ、フレンドリーな態度の人物でした。また別に、ドイツ出版社との取引の中でのことですが（洋書店は海外の出版社との直取引もある）、ある学術出版社の担当者は、―残念なことに既に定年退職してしまいましたが― 仕事の素早さ、情報の正確性、また大変フレンドリー、気さくな対応で日本国内書店の仕入担当者の中で大変な人気者となり、今となっては伝説的といえるほどの人物です。東日本大震災の時には多くの海外の出版社、取次から同情と心配、そして励ましのメールが送られてきた中で、その彼から、家族を気遣う心温まるメールを送信してもらい感激したという印象深い思い出があります。その時、下手な英文と自覚しつつ、返信する際通常のビジネス英語とは違うので大変苦労

した覚えがあります。このようにドイツ人とある程度長く付き合うと大分フレンドリーな態度で対応してもらえるのですが、そのKNVの商品管理の担当者は破産申告以来、どうもそっけない感じになり、以前のような態度ではなくなってしまったのが気がかりな点です。条件の改悪により、大分彼にクレームしたことによるかもしれませんが。

その後、管財人の管理下で業務を続けていましたが、2019年8月1日付で"Zeitfracht-Group" ―これはドイツ、ヨーロッパでの物流、ロジスティクの巨大企業ですが― の傘下に入り、社名もKNV Zeitfrachtに変更、その旨エリアマネージャーからメールが送信されてきました。新たに、新会社と契約を交わすための契約書が送られ、サインを求められたわけです。

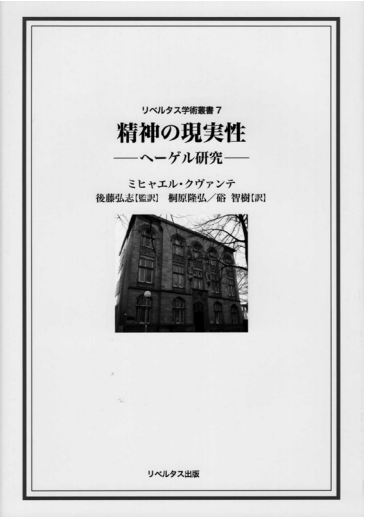
今現在は、条件の変更後そのままではありますが、特に問題なく推移しています。ドイツ書は人文科学を扱っている書店にとって大事な売り上げのベースとなっているので、ドイツ取次の存在は死活問題、それも二社揃っての取次の存在は大変重要と思います。これは、後程ベーカー＆テーラー（アメリカの二大取次の一社）の件についてお話しする際に再度言及する予定です。

今回のKNV破産問題は、公式には（エリアマネージャーからのメール）、新たなロジスティクへの巨大な投資とマネジメントの失敗、そして銀行団による財務的な過度な投資によって、流動資産が被害を受けたことが原因とのことです。KNVは大きすぎて、つぶすわけにはいかないとも言っています。ただ、日本のマーケットを見ると、2016年末をもってある日本のフォワーダー、物流会社がKNVの日本への発送業務を取りやめるとの案内がありました。理由は物流の減少にともなって、サービスの継続が不可能となったから、とのことでした。実はその年には、ある歴史あるドイツ書専門書店が廃業し、KNVにとってその書店は大きな顧客であり、それが取りやめの大きな契機となったと思わざるを得ません。またそれは、ある大手書店が大分以前からドイツ書の案内を停止し、英米書籍のみ宣伝するなど、大学研究の現場でも英語が支配する傾向となっているのと軌を一にしています。もちろん、文教予算の長い間の減少傾向が大きな理由の一つでもあります。したがって、KNVの破産問題は公式な見解が大きな原因の一つであることは理解しつつも、上記に述べた外部要因が主な理由であると思われます。

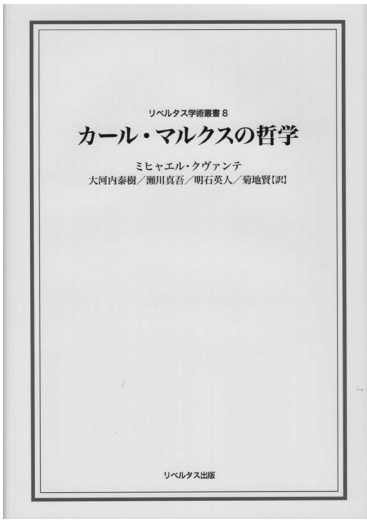
米・ベーカー＆テーラーインターナショナルの事例

そして、ベーカー＆テーラーインターナショナルの件ですが、このアメリカの二大取次の一つの日本事務所から、日本での卸業務から撤退するとの案内が2019年5月7日に送信されてきました。ただ、Public libraryへのサプライ、及びPublisher service businessへ業務を特化するとのことで、本体が駄目になったわけではありません。このPublisher service businessとは何なのかは、よく分かりません。いずれにしても、長年日本国内で米書を中心に代表業務を行ってきたことを考えると愕然とするしかありません。バックオーダー分は、出版予定が、指定された日時以降キャンセルされるとのことですので、急ぎデータをチェックし、他に回すしかありません。これは、悪口になるかと思いますが、大手書店には良い条件を適用しているといえますが、我々小規模洋書店には伝統的に掛け率が悪いので、極力発注を控える、或いは条件の良い出版物だけを発注する自衛手段をとってきました。しかし、アメリカの出版社でその取次経由でしか入手できないものなどは、条件が悪くても仕入れをするしかありません。本屋の立場として、掛け率が悪いからという理由で価格を上げるわけにはいきません。通常のマークアップと違う係数の適用は出来ません。ここが、零細の洋書店の厳しいところでもあります。結局、アメリカの企業は、一般に自動車産業も含めて自国のマーケットが巨大の為、海外輸出よりも国内のマーケットでカバーできると、わざわざ手間のかかる輸出を控える、したがって必ず貿易戦争が起こる傾向になります。これが、ベーカー＆テーラーにも当てはまり、要は自国のマーケットだけで良しとする営業政策です。もう一方の現在唯一のアメリカの大手取次は、ベーカーと同様、或いはそれ以上に条件が悪いので現在難儀しているところですが、書店としては別の方法も検討しながら対応することにしています。ただ言えるのは、言わば独占ですので、かなり強気に条件を提示しているとしか思えないということです。これは、出版が自国の輸出産業と位置付けるオランダに所在す

リベルタス出版として刊行している書籍



リベルタス学術叢書7
精神の現実性　ヘーゲル研究
税込価格 5,500円／ISBN 978-4-905208-08-2



リベルタス学術叢書8
カール・マルクスの哲学
税込価格 3,850円／ISBN 978-4-905208-09-9

る、世界的に著名なエリゼビア（理工・医学学術雑誌が主ですが、日本の市場だけで数十億の金額を売り上げる）、またほとんど日本では知名度がありませんが、数百年の歴史がある人文科学を中心に出版しているブリルという出版社などとは、大分様相が違っています。両出版社とも輸出が大きな割合を占めているので、自国語ではなく、ほとんど英書の出版になります。

仏・Horizon Technicsの事例

今度は、フランスにある取次の件についてですが、Horizon Technicsの日本代表業務を行っている会社から、2019年12月13日付で、書籍の取次業務の停止を決定というメールが送信されてきました。雑誌定期購読と学習マテリアル業務は継続するが、2020年1月31日をもって代表業務を終了ということでした。わが社では、フランス書についてこの取次経由で発注していました。大学でのフランス書の需要は少ないですが、人文科学を扱う書店としては、ドイツ書までの扱い金額はないまでも、著名な学術出版社がフランスにあるので大事な発注先の一つです。売上金額にフランス書はあまり貢献することがないのは、需要が少ないだけでなく、扱いの手間が掛かるのと同時に、学術書であるにもかかわらず本の単価が低いことが本屋泣かせであるからです。通常フランスの書籍は仮とじ本(broché)と言われ、アンカットのページを自分で切り開きながら読み、読み終わったものを蔵書として個人的に革装本に仕立てさせるという伝統がつい最近まであって、分野によってまだあるとの話もあるようですが、それも書籍単価の低い原因と思われます。そして、今回のフランスの取次会社、Horizon Technicsの書籍取り扱い停止は、先にKNVが不振に陥った原因が専門書店の廃業が原因の一つだったように、日本国内でフランス書を扱っていた書店(フランス語専門書店)が昨年に、また関西にある著名な書店が一昨年に、事務所を閉鎖、廃業となったことが大きな理由と思われます。

昨年は、以上に述べたように洋書業界は大変な状況に陥ったわけですが、和書の場合には再販制が維持されていることが大きいと思います。洋書は再販制がないので、アマゾンを中心にしてかなりの割引率を適用、洋書店は激烈な価格競争に晒されています。もう一つ、送料無料がアマゾンの競争の武器になっている実態があります。楽天が送料無化を契約店に要請し、独禁法違反かどうか話題になっていますが、アマゾンが適用している実態がある以上やむを得ないではないかという気もします。何故、アマゾンは独禁法に触れていないのか、よく分かりません。これは、フランス政府が、アマゾンの送料無料を法律により規制し、フランス国内の書店を守る意思を鮮明にしたのとは、大違いです。つい最近、政府の調達部門でアマゾンを指定したとの報を聞くに及び、首肯せざるを得ません。

最後に、自宅近くの書店には何かのついでに時々立ち寄ることがあり、特に新刊コーナーは興味深く、こんな本が出たのかと驚く場合もあって、個人的に、或いは仕事上の必要性から時々購入しています。しかしながら、昔よく時間つぶしで立ち寄った本屋がなくなっていたり、寂しい思いもしている昨今です。そんな中、洋書専門外売書店として我々が顧客である大学の研究者や先生から必要とされているのは、毎年刊行される海外の膨大な書籍の中から的確な出版情報を提供し得る点にあるのではないかと思います。それが、わが社が存在している理由の一つでもあると理解、そして自負もしているところです。

＊

眞田範幸（さなだのりゆき）／株式会社リベルタス代表

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

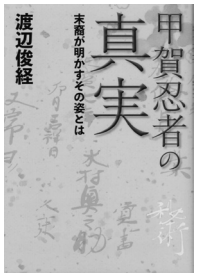
『ジソウのお仕事 －５０の物語で考える子ども虐待と児童相談所』●青山さくら／川松亮著

痛ましい子ども虐待が報じられない日はない。お陰で「ジソウ（児童相談所）」なる言葉も定着したが、それは対応の不手際に対する批判を伴ってのことが多い。でも私たちはどれほどジソウについて知っているだろうか。青山さくらさんは児童福祉司として長くジソウに勤務し、年間100件以上の対応ケースに忙殺されている。子どもや家族、施設・学校の先生と面接し、関係機関と協議して養育環境を調整する、いわば子どもたちの仮親であり、入学式や授業参観、運動会にも出かける。そうした日々の体験から、子ども虐待について考え、子どもと家族の姿を知ってほしい、何よりジソウとそこで働く人たちの思いや葛藤を伝えたいと綴ったショートストーリーに、社会福祉士の川松亮さんが、用語、虐待対応の現状、支援のありかた、ジソウの今後などについて解説を加える。

虐待通告が入って駆けつけると、殴られそうになっても歓迎されることはない。保護すれば誘拐、税金泥棒と怒鳴られる。祖父からのおぞましい性虐待の闇に怒りの沈めようがない。折角心を開きかけたのに、制度的限界で踏み込めない。英国の十分の一しかいない我が国のソーシャルワーカー。育成もままならない。戸惑い、やるせなさ、憤慨、悩み。それでもかすかな希望を持って子どもの味方になり、親子の幸せを考え、自らの良心に問いながら働く。ジソウとそこで働く人たちの存在意義を深く考えさせられる。

◆1800円・四六判・253頁・**フェミックス**・神奈川・202001刊・ISBN9784903579955

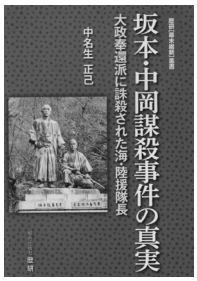
『甲賀忍者の真実 －末裔が明かすその姿とは』●渡辺俊経著



忍者というと忍び装束で颯爽と忍術を使う…わけではないことも最近は広まりつつありますが、それでは実際にはどのような存在であったかというのは知られていないのではないでしょうか。著者はかつて尾張藩に仕えた忍者の子孫。実家に眠っていた史料も駆使して甲賀忍者の実態に迫っていきます。特殊な職業集団のように思われる忍者ですが、甲賀忍者とはすなわち甲賀武士のことを指します。彼らが世に出たのは室町時代、将軍足利義尚が近江の六角高頼を討伐しようとした鈎の陣という合戦でした。甲賀武士は六角方について戦い、ゲリラ戦を展開して将軍方を苦しめました。この時の活躍ぶりが将軍方の全国の大名たちにも伝わり、甲賀武士＝甲賀忍者の名が一躍全国に広まりました。その活躍ぶりの理由として、甲賀の武士特有の高い自律性や修験道等との関わりの中で身に着けた知識や情報収集能力などがあったことが示されます。また本能寺の変後の徳川家康の逃亡劇、いわゆる「神君伊賀越え」にも関わります。多くの史料を比較して、実はそれが「伊賀越え」ならぬ「甲賀伊賀越え」であったことを解き明かす章は本書の読みどころのひとつでしょう。一方平和な江戸時代には忍者も公務員化していきます。代替わりに誓約書を提出したり、上司に報告書を提出したりする姿はイメージの中の忍者とはかけ離れています。甲賀忍者の成り立ちから平和な時代の処世まで、意外な忍者の正体を探っていきます。

◆2400円・A５判・151頁・**サンライズ出版**・滋賀・202002刊・ISBN9784883256754

『坂本・中岡謀殺事件の真実 －大政奉還派に誅殺された海・陸援隊長』●中名生正己著



慶応３年（1867）１１月１５日夜、京都河原町の近江屋において坂本龍馬・中岡慎太郎ら三名が殺害された誰もが御存じの事件。これに多くの人が今なお関心を注ぐ理由に、犯人が未確定であるのに加えて当時の政治情勢と深く絡み合っているからだろう。実行犯については、当初現場に残る遺留品などから新選組説ではないかとされたが、明治２年（1869）の箱館戦争で降伏した京都見廻組の一人、今井信郎の自供によって龍馬暗殺はかれらの犯行であることが明らかとなる。以後、現在に至るまで見廻組説が有力だ。問題は誰が殺害を命令したのか、果たして黒幕の存在があったのか、それともなかったのか。武力倒幕を推進する薩摩藩陰謀説、あるいは、「いろは丸事件」による紀州藩報復説などがある中、京都見廻組の上司である京都守護職・松平容保の会津藩説が現在もっとも有力視されている。さて本書はというと、土佐藩黒幕説を主張する。と言っても後藤象二郎や岩崎弥太郎が登場するわけじゃない。今井の供述は不審の点が多いことから偽装工作があったとし、かれを取り調べた兵部省及び刑部省により捏造されたものだという。当時の両省には土佐藩関係者がおり、坂本・中岡の名誉回復の目的のために犯行を幕府の手の者に押し付けた。かれらがそこまでするには真犯人が土佐藩内部の者だから。近江屋に事件直前までいた岡本健三郎ほか二名の下級藩士が実行犯。命令したのが大政奉還派の寺村左膳だと推論する。

◆2000円・Ａ５判・212頁・**歴研**・東京・202001刊・ISBN9784865480900

『諏訪の神さまが気になるの －古文書でひもとく諏訪信仰のはるかな旅』●北沢房子著

神社巡りが好きな女子が、勇壮壮大な諏訪大社の御柱祭に行ったことがきっかけで、謎だらけ、不思議だらけの諏訪大社に引き寄せられ、深い霧に迷い込んでいく…そんなストーリーが思い浮かびそうな、軽快な文体が魅力の諏訪大社百科事典と言える一冊。読んでいて楽しいのは、まずそのラノベ風な話体文。「え？！」「うーん。」「はあ？」と、まるで女子トークを聞いているような淀みのない明るさが、すらすらとページを先へ進ませる。と言って、その内容は対照的で、諏訪大社の信仰、祭神、歴史、システムににまつわる謎を解いていく重厚なものだ。諏訪信仰の謎を解く面白さに目覚めてしまった著者は、関連古文書を読み解くために、まずは長野県立歴史館の古文書講座・初級コースに通うことから始めた、という。そんな努力の結晶となった本書は、四本の御柱に倣って四部構成になっている。もし、祭神の謎に興味があるならば、第１章「建御名方神の巻」から読むのがいいだろう。諏訪信仰の歴史を知りたいなら、明治になるまで諏訪明神の化身として崇められていたという大祝（おおほうり）について詳述した第２章「大祝の巻」がおすすめである。第３章「神長の巻」では、建御名方神諏訪入り前の土地神だったと伝わるモリヤ神と、その子孫とされる守矢氏の視点から諏訪信仰史が語られる。第４章「ミシャグジの巻」では、おそらくは縄文時代にも繋がるだろう諏訪信仰の最古層にいる土地神、ミシャグジの謎に迫る。

◆1600円・四六判・262頁・**信濃毎日新聞社**・長野・202001刊・ISBN9784784073542

『ブードゥーラウンジ』●鹿子裕文著

福岡市中央区天神は言わずと知れた九州で一番巨大な街で、話題の店が次々と出店し、開発されきった感があるが、そんな天神にも再開発の手が及んでいない野性的な地区がある。そのひとつが「北天神」と呼ばれている一帯で、そこにはライブハウス「ブードゥーラウンジ」がある。くたびれた雑居ビルの三階に店を構え、お世辞にも洒落ているとは言えないが、強力な磁場として人々を吸い込み、店はいつも“はみだし者”たちの熱気と狂気に溢れている。そんな「ブードゥーラウンジ」のイベントを企画、司会進行まで何でもこなすのがバンドでも活動中の「福岡一忙しいミュージシャン」ボギー。レギュラーイベントに登場する面々もクセ者揃いだが、いろいろなタイプのバンドがひしめき合い、人は理屈抜きに音楽で幸せを感じ取れる。ボギーの実弟オクムラユウスケもギター一本で歌うミュージシャンだが、降りかかった悲劇を越えた後の鬼神ドラマーとのセッションシーンは圧巻。当時の店はビルの建て替えのため2016年末で閉店したが(移転先で営業中)、ラストイベントの様子からもファンの思いが火傷しそうなほどに伝わってくる。福岡出身で地元の宅老所を描いた前作で話題になった著者が放つ第二弾。ボギーの長男モンド君の似顔絵も冴えわたり、演奏曲の歌詞も心に刺さる。奥村家の家族像も表現された濃厚なノンフィクション。天井のミラーボールのモザイク状の鏡面には読者の顔も映っているに違いない。

◆1800円・四六判・447頁・**ナナロク社**・東京・202001刊・ISBN9784904292921

地方・小出版流通センターＨＰのご案内

弊社のホームページでは半年前までの本誌バックナンバーをアップしております。
また「新刊ダイジェスト」のバックナンバーもたくさん掲載してます。
アドレスは下記の通りです。右記のＱＲコードもご利用ください。
URL：http://neil.chips.jp/chihosho/

◇

毎日の新刊情報や近刊情報なども提供しております。
併せてご参考になさってください。

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2020年2月1日～29日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**ＳＰＲＩＤＥ**　ｖｏｌ．３５　２０２０年３・４月号　渡辺　直明編　Ａ４　112頁　９００円　下野新聞社　［栃木］　978-4-88286-747-0　20/02

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４８２　２０２０年２月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２５４６円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-909864-14-7　20/02

◆**くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ**　Ｎｏ．２２４　２０２０年２／３月号　中村　泰子編　吉田　真紀子編　Ａ５　80頁　８３０円　フェミックス　［神奈川］　978-4-903579-96-2　20/02

◆**調査情報**　Ｎｏ．５５３　２０２０年３－４月号　岩城　浩幸編　257mm × 160mm　96頁　７３６円　ＴＢＳテレビ　［東京］　978-4-906908-54-7　20/03

◆**ＡＸＩＳ**　Ｖｏｌ．２０４　２０２０年４月号　上條　昌宏編　Ａ４　128頁　１６３６円　アクシス　［東京］　978-4-503-21995-4　20/04

◆**Ｂｅ！**　１３８号　Ｎｏ．１６７　今成　知美編　Ａ５　111頁　８７０円　アスク・ヒューマン・ケア　［東京］　978-4-909116-15-4　20/03

◆**地方史研究**　第４０３号　地方史研究協議会編　Ａ５　122頁　１１４３円　岩田書院　［東京］　978-4-86602-853-8　20/02

◆**子どもと読書**　４４０号　２０２０年３・４月号　親子読書地域文庫全国連絡会編　Ａ５　44頁　５０９円　親子読書地域文庫全国連絡会　［東京］　978-4-907376-41-3　20/02

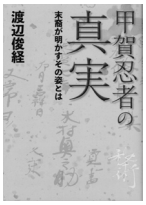
◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５８４　２０２０年２月号　片岡　輝編　Ａ５　47頁　２９０円　子どもの文化研究所　［東京］　978-4-503-21982-4　20/02

売行良好書

期間：2020年2月15日～3月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『シルバーが教えてくれた命の大切さ』2000円・リーブル出版　(2)『医者、用水路を拓く』1800円・石風社　(3)『原発の断りかた』1500円・月兎舎　(4)『ジソウのお仕事』1800円・フェミックス　(5)『甲賀忍者の真実』2400円・サンライズ出版　(6)『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500円・書肆侃侃房　(7)『たぷの里』1200円・ナナロク社　(8)『おはなし　聞いて語って』1364円・東京子ども図書館　(9)『石牟礼道子＜句・画＞集　色のない虹』1900円・弦書房　(10)『本を売る技術』1600円・本の雑誌社　(11)『イージス・アショアを追う』1600円・秋田魁新報社　(12)『石牟礼道子全詩集　完全版』3500円・石風社



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『昭和プロレスマガジン　５１』909円・昭和プロレス研究室　(2)『本を売る技術』1600円・本の雑誌社　(3)『本の雑誌　４４２号』1000円・本の雑誌社　(4)『着せる女』1650円・本の雑誌社　(5)『東京かわら版　３月号』545円・東京かわら版　(6)『今日は誰にも愛されたかった』1200円・ナナロク社　(7)『甦れ！首里城』1000円・琉球新報社　(8)『つくる たべる よむ』1700円・本の雑誌社　(9)『奥多摩登山詳細図（東編）』900円・吉備人出版　(10)『武士の拠点 鎌倉・室町時代』3000円・高志書院

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『南極殺人事件』2000円・編集工房ノア　(2)『原発の断りかた』1500円・月兎舎　(3)『まぁ映画な、岡山じゃ県３』1600円・蜻文庫　(4)『新訂　ジュニア版　琉球・沖縄史』1500円・編集工房東洋企画　(5)『おきなわ懐かし写真館　復帰前へようこそ』1200円・琉球新報社　(6)『奥多摩登山詳細図（東編）新版』900円・吉備人出版　(7)『旅先銭湯３』1200円・さいろ社　(8)『山田　稔自選集２』2300円・編集工房ノア　(9)『江ノ電３０５』1000円・江の電沿線新聞社　(10)『里帰りした「玉野市電」』1000円・吉備人出版　(11)『甲賀忍者の真実』2400円・サンライズ出版　(12)『自転車大好き　創刊準備号』500円・ブックショップ「マイタウン」

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

日本文芸家協会などが高校における学習指導要領の改変、大学入試の改革等に懸念の表明をしています。「国語教育改革」は、このままでは、「読む力」を破壊すると。文学や、人文系の表現物に関する軽視が明らかだということです。

このような改革の出てくる背景には、世界の１５歳の生徒を対象にした経済協力機構（ＯＥＣＤ）の国語学習到達調査（ＰＩＳＡ）における日本の地位の低下があり、過去最低となったことによるそうです。実用文の読み取り能力が低下し、したがって論理国語を重視し実用主義の方向で学力向上を図るというわけです。しかし、朝日新聞紙上で京大名誉教授・佐伯啓思氏が指適しています。

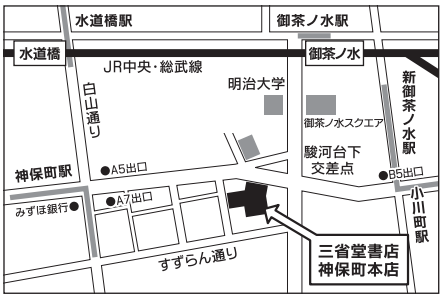
「昨今の万事を情報処理として受け止める若者たちから読解力も表現力も失われてゆくのは当然のことであろう－中略－漢字の使用が制限され、難解な文章の読解が忌避され、できるだけ身近で読みやすい教材が選ばれることになる。そこにツイッターなどの「いいね」式の文章やＬＩＮＥの短いメッセージが横行すれば、読解力も表現力も低下しない方が不思議だ－中略－国語の読解力が大事なのは、翻訳も含めて、国語で書かれた文章のなかに、先人たちの経験やそれを基にした思索のあとが刻印されており、それを知ることがわれわれのの想像力をかき立て、また鍛えるからである－中略－われわれがいま立たされている岐路、そして選択は、高度なグローバリズムのなかで世界的な競争に勝ち抜く人材を育成し、あらゆる分野で学力の向上を目指すへく教育改革を断行する方向か、他方、国語力を、生の経験の基礎的な訓練とみなし、国際競争力などに振り回されることなく、思想や文学の基礎的な読解を時間をかけて訓練するという方向かだ。私は躊躇なく後者こそが必要だと言いたい。思想や文学の基礎訓練に立ち返れ」と。

出版とも深く関わる日本の文化・文明・学術の重要な問題と思います。

（地方・小出版流通センター通信No.1436より）

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。